

福島県のトップブランド米「福、笑い」の栽培法

福島県農業総合センター 作物園芸部 稲作科

部門名 水稲－水稲－施肥法

担当者 松崎拓真、瀨名健雄、渡邊滉士、島宗知行、佐藤弘一、鈴木幸雄、笹川正樹、遠藤わか菜

I 新技術の解説

1 要旨

福島県の新しい奨励品種「福笑い」は、食味、品質に優れることから、既存品種と差別化したトップブランド米としての普及が期待されている。そこで、県内において「福、笑い」となる良食味・高品質米生産を安定して行うための生育の目安を明らかにした。

- (1) 玄米タンパク質含有率 6.4%以下となる収量の目安は以下のとおりであり、施肥体系は 基肥窒素施肥量 0.4kg/a+幼穂形成期追肥 0.2kg/a である (表1、図1)。
 - ア 中通り地域 精玄米重：55～60kg/a
 - イ 会津地域 精玄米重：60～66kg/a
 - ウ 浜通り地域 精玄米重：50～55kg/a
- (2) 幼穂形成期の生育が目標値以下の場合、同時期に窒素量 0.2kg/a 以内で追肥する。特に葉色が目標値以下になっているか必ず確認し判断する (表1)。
- (3) 玄米タンパク質含有率を 6.4%以下とするため、出穂期の止葉葉色は 33 以下とする (図2)。
- (4) 整粒歩合 80%以上を目標にした積算気温による刈取り時期は、以下のとおりである。積算気温で、1200°C頃から白未熟粒や胴割粒が増加することから、1200°C頃までに刈り取る (図3)。
 - ア 中通り 1050°C～1200°C
 - イ 会津 1000°C～1200°C
 - ウ 浜通り 1100°C～1200°C

2 期待される効果

- (1) 「福笑い」の良食味・高品質安定生産が期待される。

3 適用範囲

- (1) 県内の平坦地

4 普及上の留意点

- (1) 多肥栽培は、玄米タンパク質含有率の増加等による食味・品質の低下や籾数過剰による登熟歩合低下で減収を招くので絶対に行わない。
- (2) 刈取りは、ほ場での籾の黄化程度(80～90%以上)を確認してから行う。
- (3) 栽植密度は、中通り (16.7 株/m²)、会津 (18.5 株/m²)、浜通り (18.2 株/m²) の試験結果。

II 具体的データ等

表1 「福笑い」生育の目安

時期	項目	目標値		
		中通り	会津	浜通り
収穫期	玄米タンパク質含有率 (%)	6.4以下	6.4以下	6.4以下
	登熟歩合 (%)	85以上	90以上	85以上
	倒伏 (0~400)	-	-	150以下
幼穂形成期	草丈 (cm)	70以下	70以下	70以下
	茎数 (本/㎡)	500~550本	500~550	520~570
	葉色 (SPAD502値)	35以下	35以下	33以下
出穂期	止葉葉色 (SPAD502値)	33以下	33以下 (穂揃い期)	33以下
成熟期	稈長 (cm)	85以下	85以下	90以下
	穂数 (本/㎡)	350~400	350~400	370~410
	籾数 (×百粒/㎡)	280~300	300~320	280~300
	精玄米重 (kg/a)	55~60	60~66	50~55

※玄米は篩目1.9mmで調製。

※玄米タンパク質含有率、精玄米重、玄米千粒重は水分15%換算値。

※倒伏：倒伏程度「0(無)~4(甚)」×倒伏面積率(%)

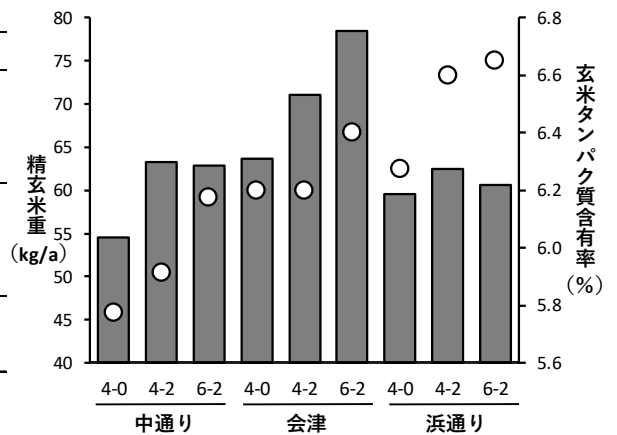


図1 施肥体系と精玄米重、玄米タンパク質含有率
 中通り、浜通りは2019と2020年の平均値
 会津は2020年の値
 ○は玄米タンパク質含有率を表す。
 ※施肥体系は窒素施肥量で基肥-追肥を示す。
 4-2：基肥 0.4kg/a、追肥 0.2kg/a

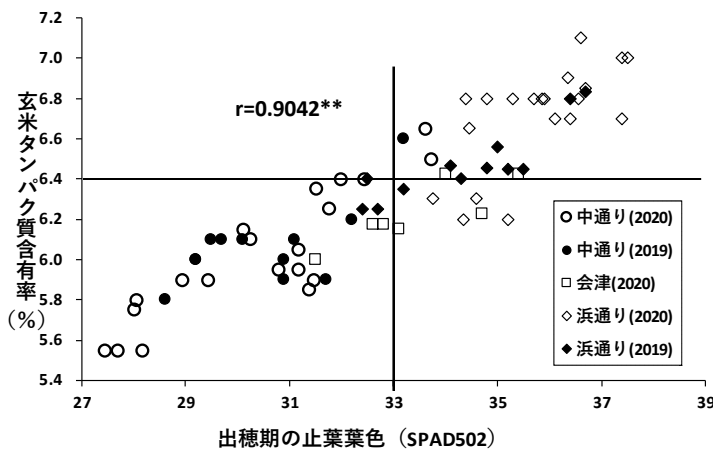
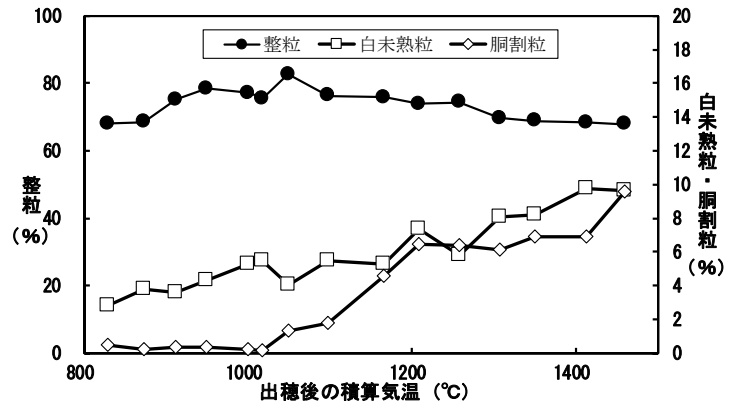


図2 出穂期の止葉葉色と玄米タンパク質含有率の関係
 rは相関係数、**は1%水準で有意、n=71



検査等級	2等以下	1等	2等
中通り	→	→	→
会津	→	→	
浜通り	→	→	

図3 出穂期後積算温度と玄米品質

積算温度：中通りは気象庁アメダス郡山データ、
 会津は農研機構メッシュ農業気象データ利用
 (日平均気温)、
 浜通りは気象庁アメダス相馬データ

上図は、2020年の中通りのデータ。登熟期間が高温年であったことから、白未熟粒が多く、整粒歩合は低くなっている。
 検査等級は、中通り、会津は2020年、浜通りは2019年のデータ

III その他

1 執筆者

松崎拓真

2 成果を得た課題名

(1) 研究期間 平成31年度～令和2年度

(2) 研究課題名 県産米の高品質化・良食味米生産のための栽培管理技術の確立

3 主な参考文献・資料

(1) 平成30年度普及に移しうる成果「主食用品種「福島40号」の育成」